

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



学校だより

No. 8 さいたま市立神田小学校

令和5年 12月 4日発行 TEL (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

糸をもつ手

校長 米玉利 優子

「3年生は息を吸うときに皆の肩が一斉に上がっていて、心がひとつになっているってわかったよね。」「それ、私もびっくりした！私たちも5、6年生みたいにきれいな声を出せるようになるかな。」と言って、「あ〜っ♪」と頭声発声に挑戦しながら下校していた子どもたち。音楽会を実施してよかったと思わせてくれるかわいい神田の子です。4年ぶりに全校児童が集まって開催した音楽会。多くの保護者の皆様、学校運営協議会の方々に参観していただきました。

「嵐の中をかき分けていく小さなカイトよ 悲しみをこえてどこまでも行こう そして帰ろう その糸のつながった先まで 風が吹けば歌が流れる 口ずさもう 彼方へ向けて 君の夢よ叶えと願う 溢れ出す ラルラリラ」オリンピックの応援歌にもなった嵐の「カイト」の歌詞の一節です。6年生の歌を聴きながら、皆の夢を描いたカイトがきれいな青空で力強く飛び、輝いていた景色を思い出していました。夢をもち、強い風に立ち向かい、大空を飛ぶカイトのような子どもたち。その糸を引いたり、緩めたりしながら、高く空へ舞い上がれるように、見えない糸をしっかりと握りしめてくれている、保護者のあたたかい手があることも改めて感じました。

幼い頃、母と散歩をしていた私は道端に咲いているきれいな花をとって、母にあげました。その時に母が言った言葉を今も鮮明に覚えています。「きれいなお花だね、ありがとう。とっても嬉しいよ。でも、お花は今、痛いよと言っているのが聴こえる？かわいそうだからこれからは、とらずにきれいだねって言ってあげようね。」優子という名前を付けたのは、優しい子になってほしいからだよと言い続け育ててくれた両親。私の糸をもつ手です。年の瀬には、青い空を見上げて両親に話しかけたいと思います。「落ちたり傷ついたりしたけれど、今も元気に夢に向かって飛んでいます。だから、糸をもつ手をずっと離さないでね。悩んだときは、糸を引くその場所に戻るからね…」と。

12月3日（日）には、文化センターで金管バンドの演奏発表会がありました。たくさん練習を重ねてきた部員たちは、ステージ上のライトよりも、キラキラとした目で指揮者を見て、1本の糸で連なるカイトのように心を合わせ、もてる力を精一杯に発揮して演奏していました。今までで一番うまかった！と皆で笑い合う姿に胸が熱くなりました。仲間がいるからこそできること。これが学校の強みだと感じながら、音楽会、演奏会は子どもたちが私たち大人にたくさんのお話を教えてくれました。一生懸命って本当に素晴らしい。そして、とてもかっこいいと。また、糸をもつ手は保護者と共に神田小学校でありたいと強く願い、学校ができること、やらねばならぬことを深く考える時間にもなりました。

子どもたちと共に笑い、悩み…糸をもつ手を離さずにいてくださった保護者の皆様、多くの糸を束ね、子どもたちをあたたかく見守り支え続けてくださる地域の皆様に、改めて感謝申し上げます。今月もその糸を離すことなく、カイトが大空を飛び続けられるように、傷ついたカイトが戻れる場所であるように…御協力をお願いいたします。少し早いですが、今年も大変お世話になりました。2024年も皆様にとって素晴らしい1年となりますようお祈り申し上げます。どうぞよいお年をお迎えください。